



校長室の窓

令和8年9月1日(火) 第4号

夏休みが明け、学校に子供たちの元気な声に戻ってきて1週間がたちました。

先日、地域の方から「ホームページの『校長室の窓』に書かれていた話の聴き方、ドキッとして読みました。自分もまだできていないなと思って。」とお声を掛けていただきました。かく言う私も「まだまだ」です。回覧板をきっかけに学校ホームページをご覧いただき、「学校の様子が分かっていいですね。」とのお言葉をいただけたことも大変うれしく思いました。

「学校は地域に浮かぶ船」と言われます。こうして地域の方々に温かく見守られていることに感謝し、皆様とともに、子供たちの健やかな成長を支えてまいりたいと考えております。

「失敗」は成長の最高のチャンス

大人も子供も「うまくいかないこと」「間違えること」は少し怖いものです。しかし、これからの変化の激しい未来をたくましくしなやかに生き抜いていくために必要なのは、「一度も失敗しないこと」ではなく、「失敗したときに立ち止まり、自分で考え、次に踏み出す力」だと考えます。

「もう一人の自分」が見つめる力(メタ認知能力)

つまづいたとき、誰でも「もう無理、やめた…」と諦めそうになったり、投げ出したくなったりすることがあります。

子供がそのようなとき、大人が「どうしたの?」「何に困っているの?」「どこが難しかった?」「次はどうしてみる?」と寄り添って問い掛けることで、子供はハッと立ち止まり、自分を客観的に見つめ直すことができます。

このように、自分の気持ちや行動を振り返る力を、「メタ認知能力」と呼びます。

「もうダメだ」で終わらせず、「じゃあ、次はどうしてみようか」と前を向いて次につな

げる力は、「うまくいっているとき」よりも、むしろ「失敗して立ち止まったとき」に育ちます。「失敗」は決してマイナスではなく、「自分の心と頭を成長させる最高のチャンス」なのです。

○まずは大人が「試行錯誤」の姿を見せる

実は私たち教員も、毎日が挑戦と学びと試行錯誤の連続です。完璧を目指すのではなく、「失敗を恐れずにチャレンジし、学び続ける背中」を見せることが、子供の挑戦する心を育てるきっかけの一つになると信じています。

○失敗を恐れない土台「心理的安全性」

子供たちが自分の失敗を素直に受け止め、次のチャレンジに向かうためには、絶対に欠かせない土台があります。それが「心理的安全性」です。

「間違えても笑われない」「失敗しても大丈夫」「違う意見を言っても仲間外れになることはない」…そんな温かい安心感があって、挑戦することができます。



「何回言えば分かるの?!」→「何回か伝えたけど、どこが難しそう?」

「だから言ったでしょ!」→「やってみてどうだった?次はどうする?」

学校での学習や生活はもちろん、ご家庭での会話、そして地域での温かい見守りの中で、子供の「小さなチャレンジ」と「そこからの学び」を育てていければと思います。

日頃のご家庭での温かいお声掛けに感謝しつつ、学校でも「どこが難しかった?」「次はどうしてみる?」と、子供自身が気付きを得られるような問い掛けを重ねてまいります。

